

ひび

63号
Apr. 2023

とくしま県民活動プラザ

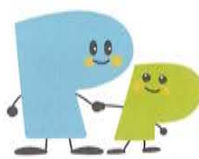
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地
沖洲マリンターミナルビル1F

tel:088-664-8211 fax:088-664-5345

e-mail:info@plaza-tokushima.com

https://www.plaza-tokushima.com

休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日、年末年始)



マスコットキャラクター プラザ

とくしま県民活動プラザ
開設20周年記念
オンラインシンポジウム開催しました!

テーブルマジックの会
ひと 代表 武知 克弥さん
マジックはコミュニケーション

シリーズ この人から
リレー・フォー・ライフとくしま 実行委員長
徳島県がん患者団体協議会 代表
香留 美菜さん
がんイベント「リレー・フォー・ライフ」との出逢い

事業報告
「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業の活動報告

ハートリレー
No.63 岩崎さんから宮村さんへ

とくしま県民活動プラザ 開設20周年記念 オンラインシンポジウム開催しました!

2002年7月に開設された「とくしま県民活動プラザ」は、昨年開設20周年を迎えました。これを記念して、同年12月3日(土)、沖洲マリンターミナルマリンホールにて多彩なゲストをお迎えしてオンラインシンポジウムを開催しました。プラザでは、次の10年、20年を展望しながら、持続可能な社会の実現に向けて、個性豊かで住みよい徳島づくりができるよう、今後とも、NPOやボランティア団体の皆さんと共に歩み、取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



とくしま県民活動プラザとは

認定特定非営利活動法人
とくしま県民活動プラザ

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
とくしまボランティア推進センター

徳島県 未来創生文化部
未来創生政策課 分室

- 1 活動・交流の場
- 2 情報収集・提供
- 3 相談・支援
- 4 人材育成・研修

とくしま県民活動プラザ開設20周年記念 オンラインシンポジウム

『とくしまの社会貢献活動を振り返り、つなげよう！持続可能な社会へ ～ともに考え ともに進もう みんなでつくるサステナブルなミライへ～』

記念講演



米田 博さん
正法寺川を考える会 会長

社会貢献活動～共に創り未来へつなぐ

共感と協働の輪に花咲く～とくしま

社会貢献活動を行う団体への支援、情報発信等を行う中間支援センターであるとくしま県民活動プラザは、「新徳島県民運動」や「チャレンジ徳島推進運動」を経由した協働への盛り上がりを引き継ぎました。

共感と協働の輪を広げ持続可能な未来につなげていくための視点として、誇りをもって地域に貢献したいという住民を増やしていく活動が重要。そのためには「やってみようよ、やろう」との言葉が共通する先駆者の方から学び、行政への説明や働きかけを絶えず行う必要があります。行政との協働が大切です。さらなる5年10年へと徳島の社会貢献活動を発展させていきましょう。

パネルディスカッション



松崎 美穂子さん
NPO法人子育て支援ネットワーク 理事長

自分たちで
できることから実現！

子育てで困っていることや、あったらいいなと思うことでも、行政に頼るとどうしても時間がかかってしまうので、自分たちの手でお金もなくてできるんだったらそれで最高という気持ちで進んできました。

スピード感を持って

1日24時間朝起きて寝るまでの間、町づくりを考えています。目の前に課題が来たら「ほなやるで、人を探そう、お金は企業を回ろう」と、とにかく早いです。



井原 まゆみさん
NPO法人あわ・みらい創生社 代表理事

テーマ①

あったらいいなを形にするには…？



佐藤 貴志さん
NPO法人エコロジカル・ファーストエイド 理事長

橋わたし役が必要

地域住民と様々な業種の人たちの「橋わたし役」となる存在が必要不可欠です。集まった方と、やりがいとかWin&Winの関係を構築することが大事です。

色んな所と連携して

大学、新聞社と連携して、あったらいいなというのを計画に書いたり、お金を集めたり、人にプレゼンしていくという過程を学ぶ活動を行っています。



里見 和彦さん
NPO法人チャレンジサポーターズ 理事長

佐藤さん

資金獲得はバランスよく

非営利活動団体の資金獲得は、①収益事業、②企業・スポンサー寄付、③助成金・受託事業に分けられますが、この3つからバランスよく獲得することができる経営を考える必要があります。

テーマ②

資金調達 について



里見さん

次世代につなぐためには

現在は寄付とボランティアで人件費ゼロで活動していますが、それでは長く続けられません。活動に参加してくれている若い世代の雇用のため、収益化を考える岐路に立っています。

松崎さん

試行錯誤の上に

6年前くらいにNPOでも収益を上げることができることを知り、そこから試行錯誤し、立ち上げ30年目にして、ようやく生活できる待遇で人を雇えるようになりました。

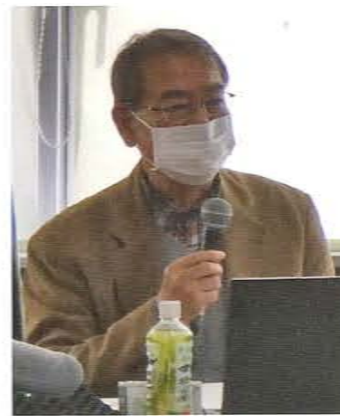
井原さん

ふるさと納税を活用して

「ふるさと納税」の仕組みの中で資金調達できないかと新たに取り組んでいます。自治体の税収も増えますし、より住民活動が円滑にできるようになるのではないかと考えています。

コーディネーター

ボランティアの定義は無償ではなく有償ボランティアであるべきで、資金を適正に稼いでいい社会貢献活動をするべきだと思います。今回のシンポジウムでは、「あったらいいな」「資金調達」「共感」など色々なキーワードが出ました。プラザの20周年、県下では40年前からすばらしい活動があって、次へつなぐキーパーソンもいます。情報だけでなく、お互いに人がつながって、Win&Win的につながっていくようになればと思います。



澤田 俊明さん
NPO法人 郷の元気 代表理事

参加者のみなさんからいただいた感想
(気付きカード)

笑顔のある活動	ふるさと愛	人を動かすのは情熱
	共感	
子どもたちとまちづくり	継続	農業と社会貢献
	有言実行	
NPO法人活動はボランティア	つなぐ	資金調達メニューを

もっと詳しい情報は開催情報サイトをご覧ください！

<https://www.craft.do/s/36cbeaUAS5v2ru>



マジックはコミュニケーション

今回お話を伺ったのは、「テーブルマジックの会」代表の武知克弥さんです。

お会いするや否や、取材が始まる前に、リングマジックを披露して下さった武知さん。自由自在にリングを操るしなやかな指さばきに見とれていると、あら不思議???取材する我々もビックリするやら可笑しいやら。和やかなムードの中始まった取材。さてさて、今回は、どんな話をお聞きすることが出来るか…興味津々です。

時は遡り、高校3年生の時。当時マジックブームだったこともあり、受験勉強の合間に息抜きとして始めたマジック。実は小学生の頃から興味はあったようで、本やDVDを参考に、練習に練習を重ね、自力でブラッシュアップしていったそうです。その後、大学を卒業し、働き始めて1年目の頃「テーブルマジックの会」に巡り合い、活動に参加しているうちに、前代表から引き継ぐことになりました。

現在代表を務める同会は、毎月1回メンバーが集まってお互いの技を披露し合い、楽しみながら練習をしたり、新しいアイデアを出し合ったりしています。大好きなマジックも出来るし、仲間のおしゃべりで情報交換も出来る。仕事で多忙な毎日を送る武知さんですが、仲間とマジックに楽しく取り組める、貴重な息抜きの時間になっているようです。

また、イベント等から依頼をいただくこともあり、都合のつく限り出演しているとのこと。イベント出演することで、たくさんの方と出会い、繋がることで活動の幅も徐々に広がっているそうです。マジックをする上で大事なことは、器用さよりも表情や目線、そして、お客さんとおしゃべりやコミュニケーション。お客さんに楽しんでもらうことはもちろんのことですが「自分が楽しめなきゃダメ。失敗してもご愛嬌!とにかく楽しむ!」を心掛けているそうです。

黙々とひとりで練習をするのも大好きな武知さんですが、マジックに惚れこむあまり、なんとマジックの道具まで作ってしまいました。「この技といえば僕」と言われるようなオリジナルの技が欲しい…オリジナリティを追求

していくうちに、マジックを披露するだけでは物足りなくなり、無性に道具を作りたくなってきたのだそうです。「アイデアを考え出し、オリジナルの道具が完成する過程が何とも楽しいんです。」と満面の笑みで話してくださいました。

今後の夢をたずねると「15年後、マジックカフェを開くこと。これ7割くらい本気です。」と、何とも優しい笑顔の奥に、いたずらっ気が見え隠れ。コーヒーの香り漂う店内で、顔中に笑みを浮かべてマジックを披露しているマスターの様子が目に浮かびます。



テーブルマジックの会
代表 武知 克弥 さん

Mail: dai_vernon1986@yahoo.co.jp
HP: https://tablemagic.jimdofree.com/



Twitter



Youtube
(オリジナルマジック)



イベントで子どもたちにマジックを披露しているようす

(取材:丸山・佐藤)

シリーズ この人から

がんイベント「リレー・フォー・ライフ」との出会い

リレー・フォー・ライフとくしま実行委員長 かとめ みな
徳島県がん患者団体協議会 代表 香留 美菜



2012年からリレーフォーライフとくしま実行委員長その後、「がん患者と家族の会 がんサーライフ」設立2017年、県内のがん患者団体と協働で「徳島県がん患者団体協議会」発足代表を務める。

10年余りに、父ががんにより亡くなりました。関係性の近い親となるとその思いは想像していたよりもずっと切なく心細いものでした。治療中は父の手前、そして一生懸命寄り添っている母の前で気丈に振る舞うことを考えてばかりいたかも知れません。

父が亡くなってからリレー・フォー・ライフというがんのイベントに誘われました。会場に足を踏み入ると年齢を問わずさまざまな方々が参加されていました。私のような遺族、治療中の方、がんについて考えようと思う人たちです。最初は探るように言葉を交わし始めたことを覚えています。ですが、話し始めると初めて会ったにも関わらず、がんという共通するものがあるだけでそれまで心の底に沈んでいた言葉や感情が次々と溢れ、気が付くと何時間も語り合っていました。父の発病からそれまで感じていた気持ちを初めて人に聞いてもらったかけがえのない場所です。その後は、ずっとこの場所を守りたい思いで開催に携わってきました。

今年は6月3日(土)徳島市のふれあい健康館で開催を行う予定です。何を話してもいい。何も話さなくていい。ただがんに関わる人たちと同じ時間を過ごしなが、普段の思いを持ち寄る優しい場所を作りたいと準備しています。気軽にお立ち寄りください。



イベントの様子

「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業の活動報告

「ゆめバンクとくしま」では、団体、個人からの寄付を助成金として活用し、社会貢献活動に役立てています。今回は、令和4年度の活動(その2)です。



NPO法人 環境とくしまネットワーク

「地域の安心+安全を包む
「ふるしきエコ変化(へんげ)」プロジェクト」

昔から使われてきた風呂敷を見直してもらうためのワークショップを開催し、風呂敷が地球環境に配慮できるだけでなく、地球温暖化防止や自然災害時・防災等にも活用出来ることを体験した。



女性への暴力根絶をめざす徳島ネットワーク

「女性への暴力根絶をめざし、情報を伝える手帳を製作して普及していく活動」

コロナ禍で生活環境が変化したこと等で、女性の不安が増し、貧困や自殺者が増えている。そこで、有益な情報を伝え女性たちの孤立を防ぐために、困り事の相談先をまとめた手帳を作成した。



一般社団法人 新しい自立化支援塾

「コロナ禍における「女性、子ども、障がい者、外国人、高齢者、失業者等」、ホームレス及び生活困窮者の緊急支援活動」

コロナ禍で緊急に支援が必要な方々の相談を効果的に実施するために、短時間で検査のできる新型コロナウイルス検査ペンを購入し、抗原・抗体検査を実施すると共に、当事者性を重視した支援活動を行った。



女性グループ・すいーぷ

「キッズケアプログラム事業」

両親の離婚で傷ついた子どもたちにケアプログラムを実施し、感情を絵や身体で表現するアクティビティを行った。また、誰にも相談できない子どもたちの悩みを聞き、将来孤立しないように、誰かに助けを求めてもよいということを経験してもらった。



江川奉仕橋かもクラブ

「持続可能な観光地づくりで街の活性化と安らぎ」

江川ゆうねんの淵周辺の清掃をし、刈り取った雑草を堆肥にして花壇に補給し再利用するなど、環境に配慮した活動を行った。また、ユリや水仙の花壇を作り、多くの方に観賞してもらい、街の活性化を図った。





No.63 岩崎さんから宮村さんへ



阿呆連 副連長
みやむら けんじ
宮村 憲志 さん

阿波踊りを担う子供たちの為に

宮村さんを知ったのは私が有名連の阿呆連に入連した1998年。

お若いにも関わらず連の色々な役を担当されておりました。自分よりずっと年下なのに周りから親しまれ信用されている、「輝いとるナ」的な人でした。

昨今のコロナ禍で阿波おどり界にも活動自粛の波が押し寄せ、お盆の踊りはおろか、練習も中止。徳島が誇る伝統芸能に陰りが見えるころ、22シーズンより阿呆連では未来を担う「阿呆連ユース」を立ち上げました。(対象は4歳から12歳)

阿呆連は中学生以上でないと棧敷では踊れない決まりがあります。ユースは棧敷には入れませんが、阿波おどりを未来へつないでいくために敢えて連員対象外のユースが創設されました。

宮村さんはその総責任者を務めておられます。踊りの指導はもとより、練習場所の確保、保護者や対象者への細かい連絡や心配りをはじめ、指導ではおどりの形を追い求めるだけでなく、全体の雰囲気や心のケアを含め、子供たちの人間形成にも深く関わっておられます。背中で人生を教える、、、私が子供ならこんな人に先生になってほしいなって思える人です。

阿呆連だけでなく、阿波踊りの世界、いや徳島にはなくてはならない方です。

私も彼を見習って、ますますいろんな事に貢献していきたいと思えます。

「ケンちゃん、前よりは歳
いっとうけどマアアア輝いと
るでよ」 笑

いわさき ひろかず
文・岩崎 寛和



とくしま県民活動プラザ

- プラザ開館時間 開館時間：10:00～18:00
【研修室利用時間】 火曜日～土曜日：10:00～21:00
日・祝日：10:00～18:00
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、
年末年始(12/29～翌1/3)



● 公共交通機関をご利用の場合 ●

- JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、
- ・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ
- ・「沖洲・南海フェリー前(マリンピア経由)」行きに乗車「マリンターミナル前」下車すぐ

貸メールボックス・貸ロッカー 利用団体募集!

こんなときに…

- ★ 団体間の情報交換
- ★ プラザからの連絡文書の受け取りなど
- ★ 会議に使う資料や作業に使うコピー用紙・文具の保管

※ 利用には団体登録が必要です。

※ 一年ごとの更新が必要です。

● メールボックス

大きさ(A 4サイズ対応)
W23.6cm×D31.8cm×H6.9cm

● ロッカー

大きさ(A 3サイズ対応)
W24.8cm×D42.4cm×H39.7cm

編集後記

阪神淡路大震災から27年、東日本大震災から12年が経ちました。あのときの衝撃は、いつまでも経っても忘れることはできません。前者のときに巻き起こったボランティア、NPOの活躍が、特定非営利活動促進法の制定につながり、今日まで連綿と繋がってきています。とくしま県民活動プラザは設立されてから、丸20年を越えました。時間が経過するにつれて、社会貢献活動を取り巻く状況がよくなったかといえば、そうばかりは言えません。後継者問題に代表される高齢化、若年層の担い手不足、そして、活動資金の調達困難という深刻な問題を抱えている団体が多数あります。これは、徳島県、ひいては日本全体の重要な課題です。当プラザは、こうした課題を解決するために、中間支援センターとしてどうすればお役に立てるのか。いろいろと考えていますが、その答えは一朝一夕に出るものではありません。ただ、きっと道はあるはず

CLEANUP アドプト・プログラム吉野川
吉野川を私たちの手でもっときれいに!

参加団体募集中心!!
HPはこちらから↓

吉野川交流推進会議 徳島県庁 未来創生政策課内
TEL: 088-621-2743 FAX: 088-621-2758